

本日ここに、伊予市長 武智 邦典 様をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和4年度愛媛県立伊予農業高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは大きな喜びであり、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。お子様の高校卒業という大きな節目を迎えられたことに心よりお慶び申し上げます。

さて、ただいま、卒業証書を授与した203名の皆さん、卒業おめでとう。これからの未来に向かって大きく羽ばたこうとしている卒業生の皆さんに、私は二つのことをはなむけの言葉として贈りたいと思います。

一つは、努力し続けることの大切さ、「努力の歩みを決して止めてはならない」ということです。いかなるときも、少しずつでも歩いていけば、目的地に到着できます。止まってしまえば、絶対に前には行けません。皆さんは、この三年間、様々な場面で多くの活躍を見せてくれました。しかし、その成果の裏には、人には言えないほどの努力があったものと思います。「努力」を続けることは、決して楽ではありません。しかし、「努力」は嘘をつきません。皆さんの前途には、試練の嵐も吹き荒れることもあるでしょうが、「努力」を忘れぬ、力強い精神をもって、生活を送ってほしいと思います。「努力あるところ希望あり」

もうひとつは、人を思いやる気持ちを持つことです。皆さんの高校生活は、予想もできない出来事の連続でした。入学直後から、新型コロナウイルス感染症対策をとりながらの学校生活でした。部活動や諸行事の中止と縮小、楽しみにしていた修学旅行、運動会、農業祭も変更を余儀なくされました。しかし、皆さんはそのたびに、伊予農のチーム力によって困難を乗り越えてきました。このような状況の中から、人を思いやる気持ち、いたわりの感情、共感性などを学んだのではないのでしょうか。どんなに科学技術やAIが進歩しても、最終的に人が人とコミュニケーションをとる上で大切なことは、そういったお互いを尊重すること、人を思いやることです。皆さんにはこのことを忘れずに今後の人生を歩んでほしいと思います。そんな、相手の気持ちがわかる、心優しい生徒が多いのは、農業高校の特徴だとも思っています。「思いやりとやさしさは一生の宝物」

私は伊予農業高校が伝統校としてあり続けられるのは、第一に、本校に対する同窓生、保護者、地域の方々の熱い思いがあるからだと思います。様々な場面で生徒を励まし、物心両面にわたり支えてくださっていることが、伊予農高生にとってどれだけ力になっていることかわかりません。第二に、本校で教える教師の志、心意気です。本校の先生方は伊予農で教えることに使命感を持って教壇に立ち、生徒に真剣に向き合っています。そして、第三に、皆さん自身が新しい未来を切り拓いていこうとする力です。この三つが見事に融合し、伊予農という校風を作り上げ、伊予農高生を育ててきたのだと思います。本校の卒業生はこれまで1万8,000余名を数えます。全国の同窓生が後輩達の活躍を期待し、熱い思いで皆さんを見守ってくれるはずです。これからは、多くの仲間とともに、「向学、自律、勤労」そして、汗出せ、声出せ、力出せの気持ちで力強く歩んでください。

結びに、卒業生の皆さんの前途洋々たる未来を祝福し、皆さんが、自分の人生を切り拓き、たくましく生き抜いていくことを心から祈念し式辞といたします。

令和5年3月1日

愛媛県立伊予農業高等学校長 松永 泰